




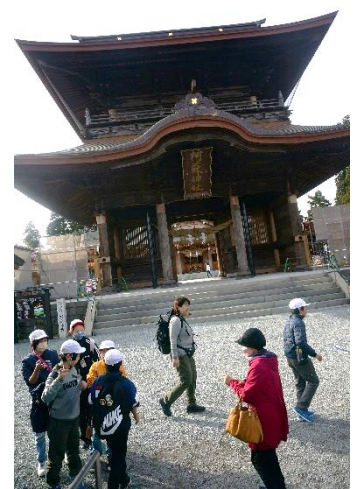


5年生宿泊教室 part I

昨日25日(月)~27日(水)まで、5年生は阿蘇青少年の家交流センターで宿泊教室を行っています。5年生は学年全体の目標に「協力」を掲げ、今回の宿泊教室に臨んでいます。出発した日の朝は、気温も低く、阿蘇では氷点下を記録しています。しかし、阿蘇に着き、活動する頃には、気温も上昇してきました。阿蘇では、昼食の時間にお弁当を食べ終わると、水基(みずき)めぐりという



ウォークラリーがスタートしました。青少年の家から4km以上歩いて、阿蘇神社に到着し、そこから、水基めぐりがスタートしました。水基とは、今で言う湧き水兼水飲み場という感じです。15もの水基があるそうです。青少年の家でいただいた地図を片手に、グループで様々な水基を巡っていきます。水基を探して、ビンゴカードのようなシートに記入していきながら、得点を競い合います。水基で飲むことができる天然水は、不老長、寿の水として地元では崇められています。子供たちもこれらの水を飲んで、元気になって帰ってくることでしょう。子供たちは水を飲みながら「この水は、すっきりしている。」「この水はまるやかで美味しい。」などと口にしながら、阿蘇の天然水を堪能していました。また、阿蘇神社の楼門(国指定重要文化財)は、熊本地震から約7年半を経て、令和5年12月7日に復旧完了し、多くの観光客で賑わいを見せていました。水基めぐりをした子供たちの感想です。「『 帯西イエロー』の心が伸びました。一人では、ウォークラリーは解けなかったけど、みんなで協力して、たくさんの水基を見付けることができましたからです。」「『 帯西グリーン』の心が伸びました。わけは、普段あまりしゃべらない人とも意見を出し合って、ウォークラリーを助け合って時間いっぱいまで頑張ったからです。」「『 帯西ブルー』の心が伸びました。歩き回って疲れていたけど、美味しい水を飲んで、生き返ったような心地だったからです。」と様々な心が伸びたようです。班で声を掛け合って、それぞれの役割を果たしながら、水基めぐりを進めることができました。



また、ナイトハイクでは、各グループに分かれて、夜の山道を懐中電灯一つで、大自然の中を闊歩しました。グループごとの出発は、3分おきにして、グループ同士がコース上で重ならないように工夫しています。子供たちは「星がとってもきれいでした。熊本市で見る星と阿蘇で見る星の明るさが全然違ってびっくりしました。」「夜の道は怖かったけど、みんなで声を掛け合って、励まし合うことで乗り切りました。」「途中、道に迷ったけど、遠くの方で別の班の灯りが見えて、そこを目指して歩くと、戻ってくることができました。」などと、夜道のスリリングな体験を興奮気味に話してくれました。

子供たちも自然の中で、全員貴重な体験ができ、少し歩き疲れたところで、一日目の夜の帳が、窓の外から激しい風の音を運んできながら、降りていきました。